

# 令和2年度夏期産米改良座談会資料

なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

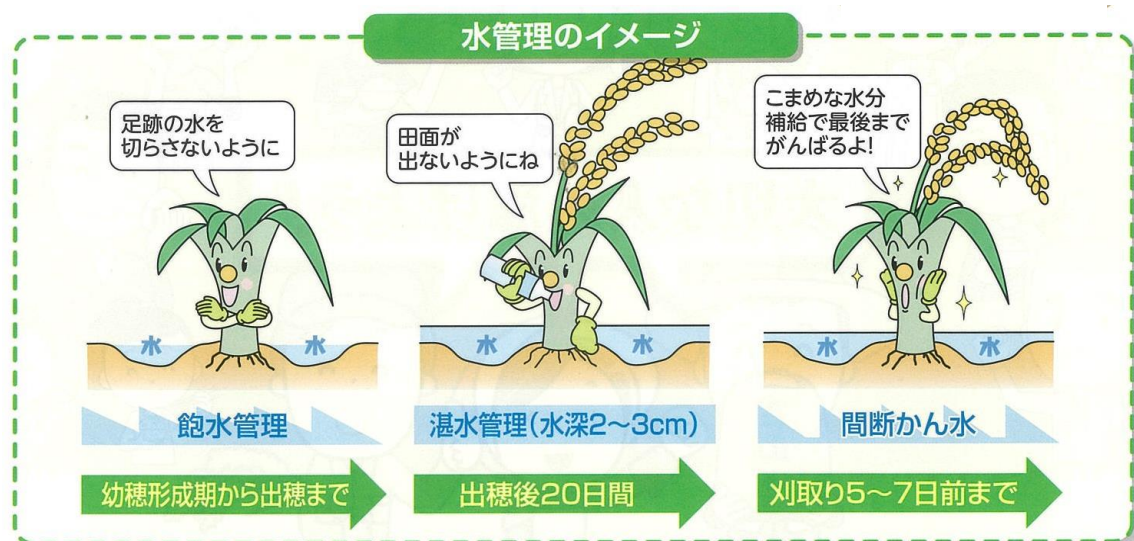
～「R2JAなのはな米品質向上運動」実施中～  
なのはな米1等比率95%以上!!

水稻の出穂は、平年より遅くなっています。今後、高温が予想されますので、適切な**水管理の徹底**により最後まで稲体活力を維持し、「白未熟粒」や「胴割米」の発生を抑えましょう。  
さらに**適期刈取**や**適切な乾燥調製作業**で高品質な「なのはな米」に仕上げましょう。

## 1 出穂後の水管理

～きめ細かな水管理を徹底し、最後まで稲体活力を維持!～

- (1) 出穂後20日間は**湛水管理**とし、田面が露出しない程度の湛水状態を保ちましょう。
- (2) 出穂後20日以降は、刈り取りの5～7日前まで**間断かん水**に努めましょう。
- (3) フェーン現象が予想される場合は、事前に入水しましょう。



※「フェーン現象予測」は、NOSAI とやまのホームページに掲載(「NOSAI とやま気象情報フェーン現象・予測」で検索)

## 2 適期刈取

～早刈りや刈り遅れは厳禁! 計画的に収穫作業を!!～

### 胴割米の発生要因

- 1 刈り遅れ  
(収穫時期のフェーン現象で増加)
- 2 稲体の活力低下
- 3 登熟初期の高温

### 対策

- 適期刈取
- 水管理

嫌われ者の胴割米を



絶対出さない!!

登熟期間中が高温になると籾の黄化が促進されるとともに、外見(籾)以上に玄米の青みの抜けが早くなる傾向があります。  
砂壤土や枯れ上がりの早いほ場から刈り始め、刈り遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。

表1 刈取始期の目安

	通常年	高温年
コシヒカリ	籾黄化率85% 出穂後40日頃	籾黄化率80%～ 出穂後35日頃～

※高温年：出穂後20日間の平均気温が28℃以上の年



### 籾黄化率の目安

点線内の2次枝梗籾が黄化した時が籾黄化率85～90%

## 【収穫作業時の留意点】

- ① クサネムの種子が米に混入すると、調製作業で除去することが困難になります。収穫前に必ず抜き取りましょう。
- ② 朝露が完全に落ちて、籾がさらさらした頃から収穫を開始しましょう。
- ③ 畦畔沿いに褐変籾が多く見られる場合は、畔まわりは収穫から調製までを別扱いとし、着色米の混入を防ぎましょう。
- ④ 収穫後は、ヤケ米の発生を防止するため、4時間以内に籾を乾燥機に張り込み、送風しましょう。



## 3 適切な乾燥調製

～玄米水分は 14.5～15.0%に！ゆっくり乾燥！胴割米・過乾燥米の発生を防止！！

### (1) 乾化作業時の留意点

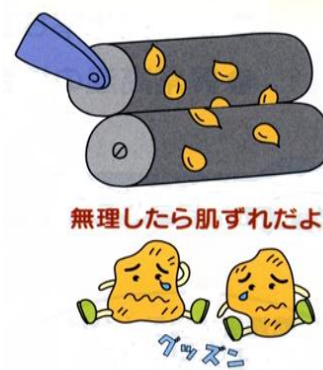
- ① 籾の張込み直後は籾水分のバラツキが大きいので、2～3時間程度は通風による乾燥を行いましょう。
- ② 機種に指定されている温度設定と張り込み量を守り、ゆっくり乾燥しましょう。
- ③ 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。
- ④ 玄米水分が17%を切ったら、手動の水分計でこまめに測定し、過乾燥にならないよう注意しましょう。

表2 乾燥機の停止水分判定の目安

100粒中の青米数	乾燥機の設定停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く(-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる(+0.5%)

### (2) 調製作業時の留意点

- ① ゴムロールが減ったり、硬くなったら交換しましょう。
- ② 籾摺りは、砕米や肌ずれ米の発生を防ぐため、乾燥後2～3日置いて玄米水分が均一になってから実施しましょう。
- ③ 選別は、1.9 mmの篩目を使用し、くず米の完全除去のため適正な流量を守りましょう。



## 熱中症、農作業事故、用水路転落事故を防ぎましょう！

### ◎農作業時の熱中症対策

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業しましょう。
- ② 屋外では帽子や吸汗速乾性の衣服を着用しましょう。
- ③ 屋内作業では必要に応じ送風機やスポットクーラー等を利用しましょう。
- ④ 喉が渴いていなくても 20 分おきに休憩し、コップ 1～2 杯以上を目安に水分補給を。

### ◎収穫作業時の安全確保 ～コンバイン事故を防ぐポイント～

- ① 詰まったワラを取り除くときは、**必ずエンジンを切り**ましょう。
- ② 手袋は使用しないか、手に密着したものにしましょう。
- ③ **後進時には、死角**が多いので補助者による誘導や確認をしましょう。
- ④ 緊急停止装置や手こぎ作業時の安全装置が正しく動作するか確認を。

初心に戻って安全な農作業を心がけましょう。



### ◎用水路への転落事故防止

水路の草刈り、土砂上げ作業中、水路沿いの歩行、自転車走行中に多く事故が発生しています。

一人での水管理や農作業は極力避け、安全確認を心がけてください。

**秋の農作業安全運動(8月20日～10月20日)**